

気高地域未来プラン

**多様なライフスタイルで心豊かに暮らせる
「気ぶん☆さい高、ときめきのまち」気高町**

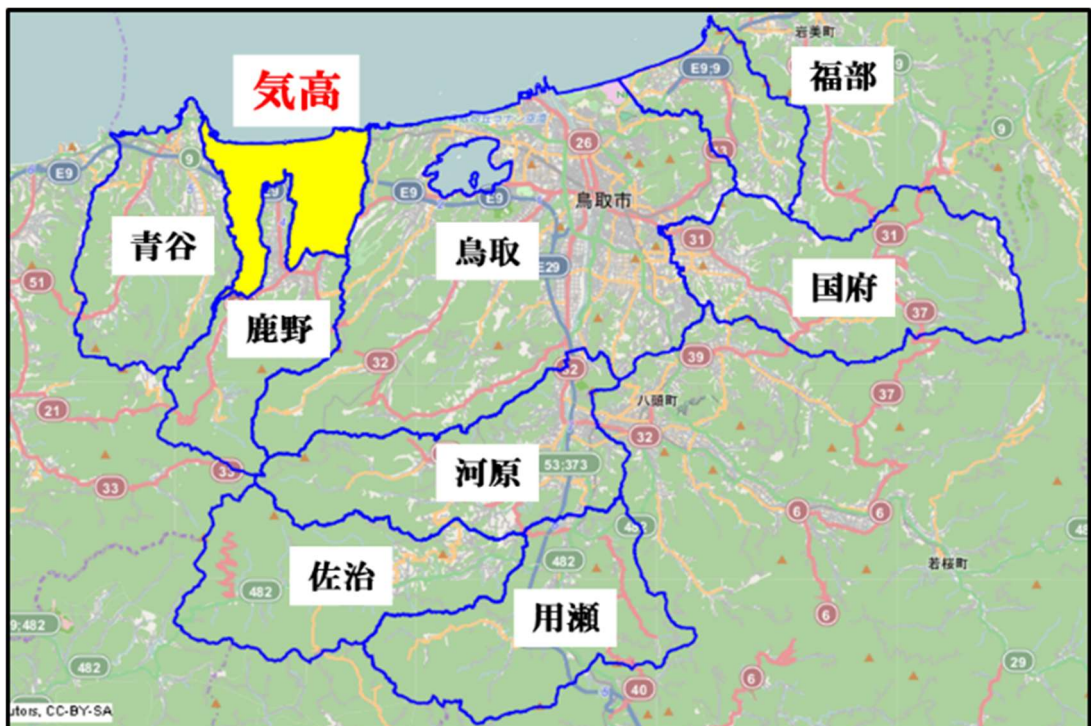


令和7年4月

気高町総合支所

目 次

- 1 策定の趣旨、計画の期間・・・・・・・・・・P 3
- 2 地域の現況：位置・土地利用等、人口・・・・・・・・P 3～5
- 3 地域の歴史・特性・資源・・・・・・・・・・P 6～7
 - (1) 歴史
 - (2) 特性
 - (3) 資源
- 4 地域の現状・課題と方向性・・・・・・・・・・P 8～11
 - (1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持
 - (2) 地域産業の活性化と雇用の確保
 - (3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進
 - (4) 交流による活性化と移住定住の推進
- 5 めざす将来像・・・・・・・・・・P 11



1 策定の趣旨、計画の期間

平成26年8月に策定した鳥取市新市域振興ビジョン（以下、振興ビジョン）は、新市域の10年先を見据えた地域の特性を活かしたまちづくりの方向性を示すもので、令和5年度末で計画期間満了となりました。この計画期間の10年間、気高町では5つの柱に基づき取り組んだ実施計画の約8割の事業は概ね目標を達成しましたが、約2割の事業は目標未達となりました。

今後も引き続き、気高町の特色ある地域づくり、課題解決に向けての必要な施策に取り組んでいくために、鳥取市中山間地域対策強化方針（以下、強化方針）を織り込みながら、気高町の新たな気高地域未来プランを策定するものです。

この気高地域未来プランの計画期間は、令和7年度から令和11年度の5年間とし、必要に応じて見直しを行いながら、目標達成をめざしていきます。

また、この気高地域未来プランに掲げる「めざす将来像」や「地域の現状・課題と方向性」は、気高町の将来を見据えて、今後取り組む方向性を示すものであり、具体的な事業内容については、気高地域未来プラン実施計画（単年度）に基づき進捗管理を行います。

2 地域の現況

（1）位置・土地利用等について

○気高町は鳥取市西部に位置し、面積は34.31k m²で鳥取市全体の約4.5%を占めています。気高町の地形を概観すると、町全図をみてもわかるように、河川の浸食し残した山地と、その谷筋を埋めている沖積平野・海岸・砂丘に区分することができます。

○気高町は概ね海岸部に位置し、山はすべて河川が浸食し残した高地であるため、高い山はありません。気高町の谷を次々と浸食してきた河内川が最も大きく、ほかに浜村川、永江川などがあります。

○土地利用では、森林が約5割を占め、残りは農用地、宅地など5割が平地となっています。平地では水稻栽培を中心に季節の野菜づくりなどにも力を入れています。山地では果樹の栽培が行われていますが、減少傾向にあります。瑞穂地区では約400年の歴史がある特産の「日光生姜」や「瑞穂生姜」が栽培されています。



魚見台から望む船磯漁港



龍見台から望む日本海



(2) 人口について

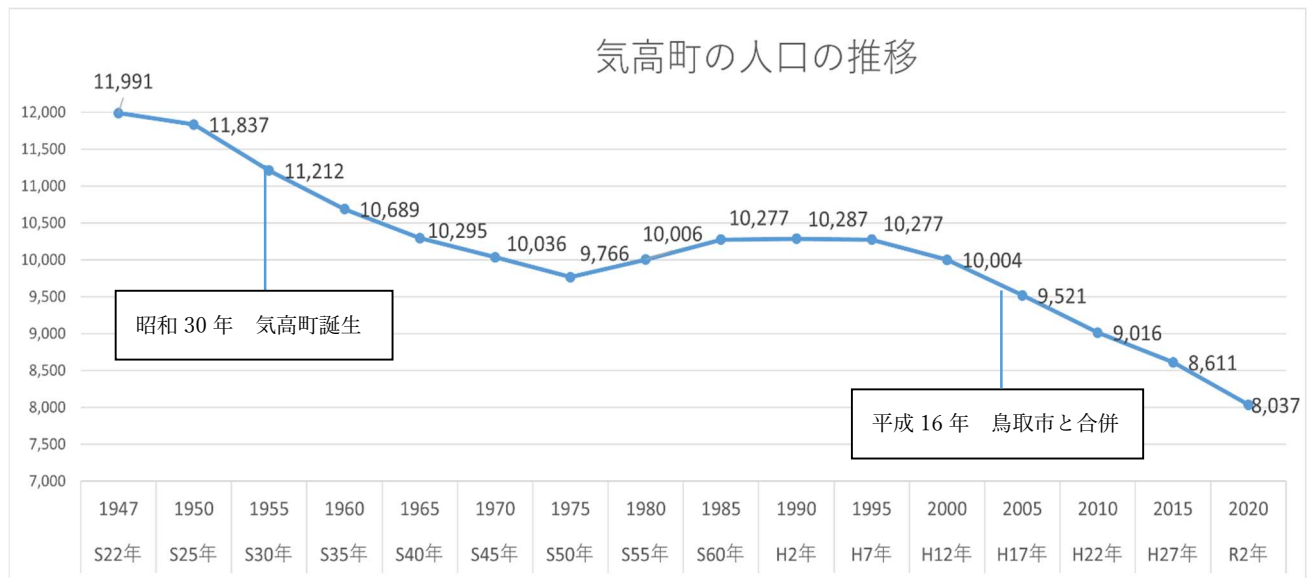
○平成16年の合併時には9,930人でしたが、令和5年12月末には8,028人となりました。約19年間で1,902人減(19.2%減)となっています。一方、世帯数は、小家族化傾向により、合併時の平成16年の3,062世帯から令和5年12月末には3,352世帯と290世帯増(9.5%増)となっています。今後も人口減少が進む中、気高町においても、人口の社会減、自然減の中で、持続可能な社会への対応が求められています。

また、高齢化率は令和5年12月末現在、36.0%となっています。

※65歳以上の高齢者数 2,888人 / 気高町の人口8,028人

令和5年12月末現在	気高町(全体比)	鳥取市
人 口	8,028人 (4.4%)	181,203人
世帯数	3,352世帯(4.1%)	81,969世帯

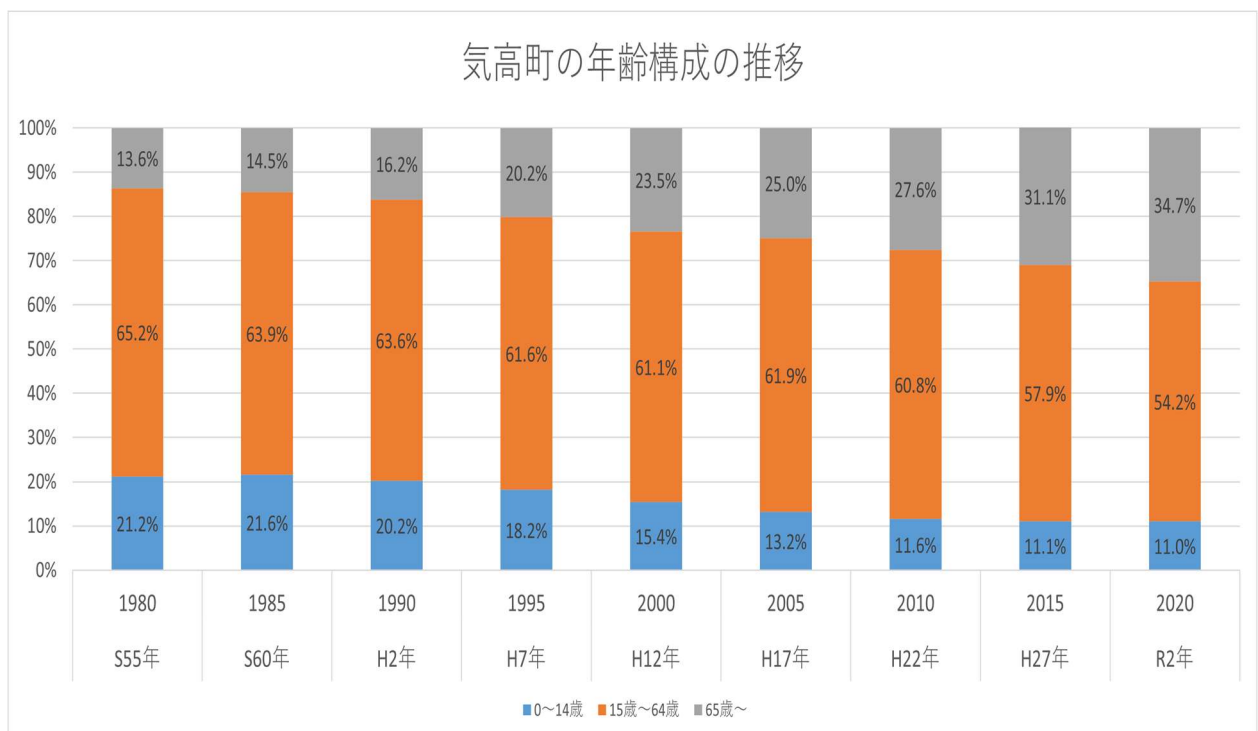
H16(合併時)の鳥取市全体の人口 200,532人 △19,329人 △9.6%



※1947年・1950年は気高町合併以前合計人口によるもの

気高町の少子・高齢化の状況（国勢調査）

区 分	人 口	増減率	少子化の状況		高齢化の状況	
			15歳未満	率	65歳以上	率
平成2年（1990）	10,287人	-	2,080人	20.2%	1,666人	16.2%
平成7年（1995）	10,277人	△0.1%	1,870人	18.2%	2,074人	20.2%
平成12年（2000）	10,004人	△2.7%	1,542人	15.4%	2,348人	23.5%
平成17年（2005）	9,521人	△4.8%	1,256人	13.2%	2,376人	25.0%
平成22年（2010）	9,016人	△5.3%	1,044人	11.6%	2,489人	27.6%
平成27年（2015）	8,611人	△4.5%	955人	11.1%	2,671人	31.1%
令和2年（2020）	8,037人	△6.7%	886人	11.0%	2,791人	34.7%



3 地域の歴史・特性・資源

(1) 歴史

町内から発見された遺物などから、少なくとも先土器時代から縄文時代まで遡ることができると言われています。

圃場整備事業を契機とした発掘調査により、弥生時代の人々の生活の痕跡が大地に刻まれていたこともわかってきました。

古墳も町全域に数多く存在しており、特に逢坂地区を中心とした後期の横穴式石室や上光や下光元などにみられる横穴墓など、人々の暮らしが特徴的な地域分布が見て取れます。

近世初頭には、亀井茲矩公による日光池の干拓事業のほか、日光生姜の栽培や大堤池のうぐい突きなどが行われ、朱印船貿易の影響は現在にも受け継がれています。

明治期になり、伯耆街道の整備による新道（県道）の敷設や鉄道山陰線の完成に合わせ、浜村温泉が発見され、鳥取藩主の保養所であったお茶屋周辺の勝見温泉から浜村駅北側周辺に温泉街や商店街がつくられていきました。

昭和初期には、浜村温泉の活性化の一助として誕生した「新民謡浜村音頭貝殻節」がレコード化され、全国的に有名になり、浜村温泉も一時の隆盛期を迎えています。

昭和の時代に数回の合併を経て気高町が昭和 30 年（1955 年）7 月に誕生しました。その後、20 世紀から 21 世紀へと時代の大きな転換期を迎え、地方分権の推進、生活圏の広域化が進む中、合併協議が重ねられ、平成 16 年（2004 年）11 月、気高町を含む鳥取県東部 8 町村と鳥取市との合併により現在に至っています。

(2) 特性

南に因幡富士と呼ばれる鷲峰山を仰ぎ、北には日本海を望む、美しい海岸線が続いています。ユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークのエリア内に位置しています。

国道 9 号線及び JR 山陰本線が東西にはしり、鳥取砂丘コナン空港や鳥取市中心市街地へのアクセスもよく、山陰道鳥取西道路の全線開通や 2 つのインターチェンジの設置、道の駅「西いなば気楽里」の完成によりさらに利便性が向上しています。

拠点となる浜村地区は、スーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストア、金融・医療機関など生活関連施設や行政施設、教育施設が整った利便性の高い町と



ヤサホーパークから望む気高町のようす

なり、近年住宅建設が増えています。

また、140年の歴史ある「浜村温泉」があり、民謡貝がら節のふるさととして、夏には「貝がら節祭り」を開催するなど、唄と踊りを伝承する取り組みを行っています。

この他、新鮮な魚介類が水揚げされ、夏には岩ガキなども獲れる酒津・船磯の漁港があります。冬には船磯漁港内でわかめの収穫祭があり、多くの市民で賑わいます。



貝がら節祭りのようす

(3) 資源

区 分	主なもの
特産品	酒津の塩さば、貝がら型のお菓子、日光生姜、瑞穂生姜、白いか、有機米 など
観 光	浜村温泉、魚見台、龍見台、布勢の清水（平成の名水百選）、睦逢のお地蔵さんの水（因伯の名水）、ヤサホーパーク（浜村砂丘公園）、浜村の文芸の小径、両国梶之助の墓所、山宮阿弥陀森大タブノキ、亀井茲矩公墓所（国指定）、因幡の菖蒲綱引き（国指定）、酒津のトンドウ（国指定）、大堤池のうぐい突き（県指定）、百手の神事（県指定）など
イベント	貝がら節祭り、気多のマルシェ、気高ときめき祭り、しょうがぽかぽかフェスタ、浜村温泉湯けむり映画祭、わかめ収穫祭など

4 地域の現状・課題と方向性

気高町に暮らす人たちが、このままずっと住み続けたいと思える安全・安心で温かみのあるふるさと、そして、都会に暮らす人たちが移り住んでみたいと思える魅力ある地域を形成することを実現するため、次の4項目に基づき取り組みます。

- (1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持
- (2) 地域産業の活性化と雇用の確保
- (3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進
- (4) 交流による活性化と移住定住の推進

(1)安心して暮らし続けることのできる地域の維持

人口の減少・過疎化の進行、激甚化する災害や巧妙化する犯罪の増加などにより持続可能な地域運営が脅かされ日常生活への影響が心配されています。

こうした社会情勢の変化や複雑かつ多様化する住民ニーズに対応するために行政、福祉関係、自治会と住民が共に助け合い、支え合いながら、課題を解決していく必要があります。

また、町内の4つの小学校の学校統合の進展により、次代を担う子どもたちの教育環境の充実を図ることが重要課題になっています。

○小学校統合によるまちづくり

- ・4校の学校統合による地域一体型の教育環境の充実とまちづくりの推進
- ・廃校舎の活用方法の検討、有効活用の支援

○地域防災力の向上

- ・リーダーの養成、地域の実情にあった防災対策の強化
- ・災害時に備えた訓練の充実、各種機関との連携強化

○地域交通の維持

- ・気高循環バス、路線バス、J Rの利用促進
- ・買い物支援対策のための地域交通の充実

○自治会加入率の向上

- ・加入率低下地域への支援

○宝木駅・浜村駅の駅舎の有効活用

- ・利活用の検討、賑わいづくりの促進

○中学校の地域部活動移行への対応

- ・地域の実情に合わせた受け皿づくりに向けた連携・支援

○子育て環境等の充実

- ・放課後児童クラブ、地域食堂の充実や家庭・地域の子育て力向上への支援
- ・地域の福祉課題を解決するための取組み推進



4 小学校の外観



消防放水訓練のようす

(2) 地域産業の活性化と雇用の確保

田園が広がる気高町にとって最大の地域産業である農業を取り巻く環境は、ますます厳しくなっており、耕作放棄地への対応、担い手の育成などが課題となっています。新たな取組として、企業の農業参入も視野に入れた組織化による後継者の確保、創意工夫を凝らした特産品の開発、新たな販売ルートの模索などが必要となっています。さらに漁業や観光を含めた地域産業の活性化を図り、雇用の創出をめざします。

○担い手の育成、農地の保全・維持

- ・関係機関との連携強化、民間組織の活用・営農組織化の支援による担い手育成支援
- ・転作作物の生産拡大の支援

○地域資源を活用した新たな産業振興と特産品の開発

- ・温泉を活用した新たな誘客施設や特産品づくり、新たな起業支援、情報発信の充実
- ・地域資源の新たな掘り起こしと特産品づくり、ブランド化に向けた組織づくり

○企業誘致の促進、働く場の確保

- ・里山などの豊かな自然環境、遊休施設の活用、交通アクセスの向上など、地域の優位性を活かした企業誘致活動の促進
- ・農業・漁業など地域産業の強化による雇用の創出

○環境にやさしい資源の有効活用による持続可能（サステイナブル）なまちづくり

- ・地域の再生エネルギー源の有効活用、スマートエネルギータウン構想の推進



特産品の生姜

(3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進

人口減少が進む中、地域の担い手不足、空き家の増加などが課題となっており、将来にわたる持続可能な地域づくりが必要となっています。そのためには、住民自ら主体的に取り組む「小さな拠点」の仕組みと地域運営組織の体制強化を図り、地域の資源を最大限に活かすことのできる地域づくりや人づくりの活動を推進します。

○地域の担い手育成

- ・次代を担う若者の活動支援
- ・人材バンク的な組織の検討

○映画を通じた文化芸術の推進



- ・映画によるまちづくりのための上映会の開催や機運醸成の支援
- ・映画ロケの誘致支援

○伝統芸能・伝統行事等の維持・継承

- ・民謡貝がら節（唄・踊り）、国の指定文化財をはじめとする文化財の保存伝承活動の支援
- ・民謡貝がら節レコード発売100周年（2003年）に向けた機運醸成の支援

○小さな拠点づくりの促進

- ・浜村・逢坂地区での取組み・継続の支援、取組地域の拡大

○まちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力の向上

- ・地域とまちづくり協議会との連携による活動の支援
- ・地域内5つのまちづくり協議会や関係機関との連携支援

○公共施設の利活用

- ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討
- ・公園等の既存施設の有効活用



貝がら節踊りのようす

(4) 交流による活性化と移住定住の推進

気高町の賑わいを創出し地域の活性化を図るためには、交流人口の拡大が重要な課題です。令和元年5月に全線開通した山陰道鳥取西道路と道の駅「西いなば気楽里」を核にして生まれている新たな交流をさらに促進できるよう努めます。

また、地域資源である民謡貝がら節や温泉を利活用した交流の促進や移住定住の促進、空き家対策の強化のための地域の情報発信力の向上をめざします。



○地域にある観光資源の利活用

- ・鳥取西地域のユネスコ世界ジオパークエリアを活かした観光資源の開拓・観光体験ツアー・観光ルートの開発
- ・道の駅「西いなば気楽里」を核とした3町連携による新たな交流の促進、情報発信の充実
- ・温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討

○浜村温泉街の再生

- ・地域との連携による魅力ある温泉街の再生

- ・約140年の歴史ある浜村温泉をたどる街歩きルートの検討
- ・明治の文豪小泉八雲が訪れたゆかりの地としての情報発信

○定住促進、空き家・空き店舗対策

- ・関係機関との連携強化による情報収集、情報発信
- ・増加する空き家、空き店舗の解消に向けた組織の支援・強化、にぎわいの創出

○情報発信力の向上

- ・地域内の貴重な資源、行事などの情報をデジタル化し、SNS等で地域内外に情報発信



浜村温泉街のようす

5 めざす将来像

気高町の将来像として

「気ぶん☆さい高、ときめきのまち」気高町を掲げ「多様なライフスタイルで心豊かに暮らせるまちづくり」をめざします。

豊富な湧出量に恵まれた古くからの出で湯「浜村温泉」、約5キロにわたって続く白砂青松の海岸や秀峰「鷲峰山」を望む豊かな田園風景などの自然の恵みにあふれたまちです。

国の指定重要無形民俗文化財の「因幡の菖蒲綱引き」(子どもたちが綱引きを行う)、「酒津のトンドウ」(正月の伝統行事)や民謡「貝がら節」などの歴史や文化、文化財が数多く残されています。

これらは先人が創意工夫しながら伝えてきた心ときめく地域の宝です。そして、気高町は自然災害が比較的少なく、JR山陰本線、国道9号線、山陰道鳥取西道路など交通アクセスの利便性が高く、生活関連施設など住みやすい生活環境が整っており、鳥取市中心部や倉吉方面への通勤や通学、買い物などの利便性がさらに向上しています。

これらのかけがえのない地域の力と誇りを大切に、住んでよかったと感じられる町、さらには若者や子育て世代にとって「気ぶん☆さい高」で「ときめく」魅力的な町になるよう創意工夫していきます。そのために、夢や希望をもって住民と行政が協働して地域の活性化に取り組んでいきます。そして、これまで以上に幅広い世代が多様なライフスタイルで心豊かに暮らせる気高町をめざします。